

HOKKAN REPORT Vol.41

第101期

2025年4月1日～2026年3月31日



ホッカホールディングス株式会社

(証券コード:5902)

ごあいさつ



代表取締役社長

池田 孝資

連結業績

	第101期	第102期予想
売上高	905億円	990億円
前期比	2.0%減	
営業利益	37億円	41億円
前期比	16.5%減	
経常利益	41億円	39億円
前期比	20.7%減	
親会社株主に帰属する 当期純利益	32億円	35億円
前期比	0.5%増	

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第101期(2025年4月1日から2026年3月31日まで)の当社グループの状況について、ご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く一方で、物価の上昇が家計の実質購買力や消費者マインドに与える影響が続き、景気は緩やかな回復基調を維持しつつも力強さを欠く展開となりました。また、海外景気の減速懸念や中東情勢をはじめとする地政学的リスク、為替動向等を背景に、先行き不透明な状況が継続しました。

このような状況の下、当社グループは、中長期的な事業構造改革に取り組み、積極的な設備投資を推進してまいりましたものの、主に海外事業での受注減少等により、当連結会計年度の業績は減収減益となりました。しかしながら政策保有株式の売却により、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比で増加いたしました。

今後の施策につきましては、国内事業において顧客ニーズに対し迅速かつ高品質な対応を図るとともに、海外事業ではインドネシアにおける積極的な営業活動を通じて設備投資の早期回収を進め、中期経営計画「VENTURE-5」の最終年度である2026年度の計画達成を目指してまいります。

一方で、当社グループはペットボトルその他原油由来の原材料を用いた事業を展開しているため、中東情勢等に起因する原油・原材料価格の変動や調達環境の不安定化により、業績に影響を受けるリスクがあります。これらに対しましては、安定的な調達の継続に努めるとともに、原材料の使用量低減やリサイクル材の活用等を推進し、あわせて販売価格への適切な反映等により影響の抑制に努めてまいります。

株価および資本効率につきましては、VENTURE-5期間中の配当政策を「連結配当性向35%以上、かつ1株当たり年間配当金45円以上」と定め、積極的な株主還元に取り組んでまいります。

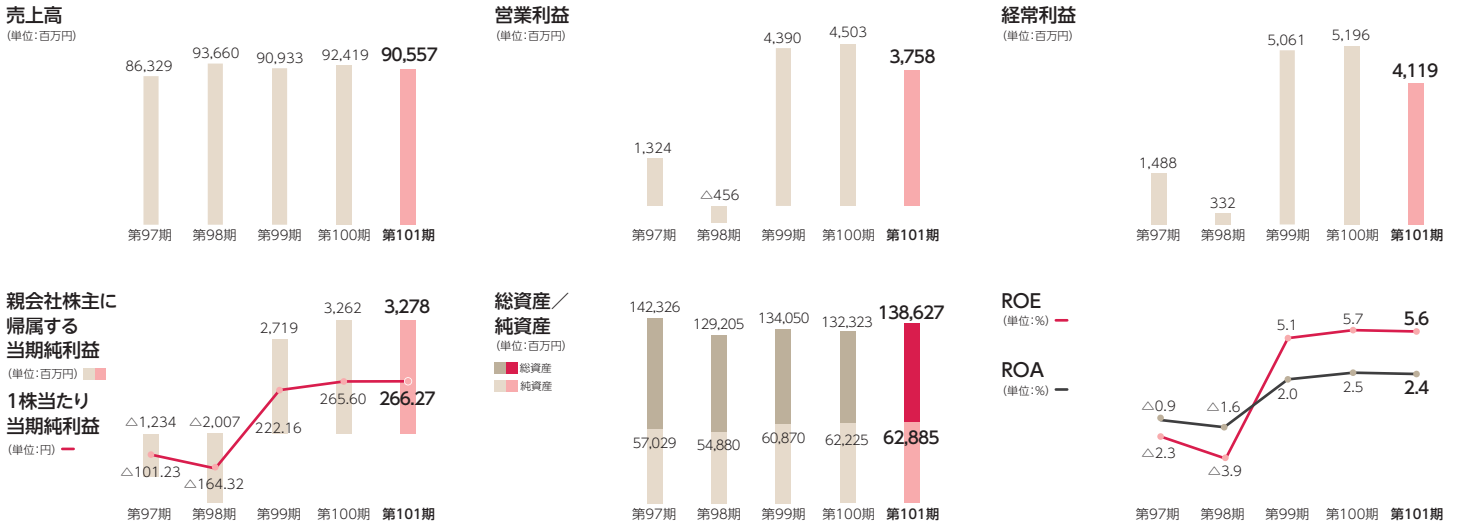
また、政策保有株式につきましては、「2027年3月末に連結純資産比率約10%とすることを旨とする」方針に基づき縮減を進めています。株式の売却等により得られた資金につきましては、成長投資や株主還元、借入金の返済等に充てることにより、さらなる資本効率の向上を図ってまいります。

さらには、さまざまな環境課題への対応や、人権、ワークライフバランスへの配慮など、事業活動において直接的・間接的に関わる社会課題の解決にも積極的に取り組んでまいります。

今後ともご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

主要財務指標(連結)

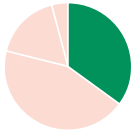
詳細はこちらをご覧ください

事業概要

容器事業

売上高構成比率



35.1%

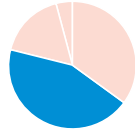
容器事業では、食品用缶などの金属容器のほか、ペットボトルなどのプラスチック容器や美術缶、スプレー缶といった一般容器などさまざまな容器の製造を行っています。

- 北海製罐株式会社
- 昭和製器株式会社
- 東都成型株式会社



充填事業

売上高構成比率



43.9%

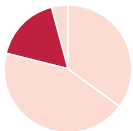
最新鋭の機器で缶飲料やペットボトル飲料の充填を行っています。大手飲料メーカー各社から委託を受け、自社工場と全く同じ規定スペックで、風味や色合いを均一に保ちながら商品を製造することが可能です。

- 株式会社日本キャンパック
- くじらい乳業株式会社
- 株式会社真喜食品



海外事業

売上高構成比率



17.0%

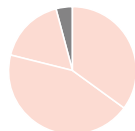
ホッカンホールディングスは日本で培った品質・技術力を活かしベトナム、インドネシアにも進出。人口の増加や経済発展の見込まれる市場として有望視されている地域にもアグレッシブに進出しています。

- ホッカン・デルタパック・インダストリ社
- ホッカン・インドネシア社
- 日本キャンパック・ベトナム社



その他

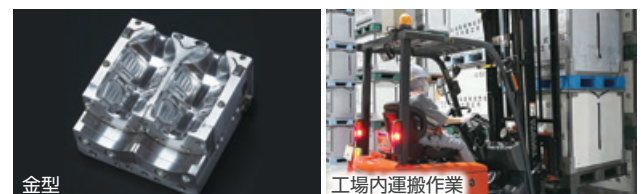
売上高構成比率



4.0%

オーエスマシナリー株式会社およびKE・OSマシナリー株式会社は、産業機械や金型等の製作を行っています。株式会社ワーク・サービスは、工場内の運搬作業等を行っており、グループ各社工場において、運搬作業等の要として展開しています。

- オーエスマシナリー株式会社
- 株式会社ワーク・サービス
- KE・OSマシナリー株式会社



北海製罐株式会社 プリフォーム生産設備導入

容器事業を営む北海製罐株式会社は、ペットボトル成形前の中間製品であるプリフォームの生産ラインを千代田工場に増設いたしました。

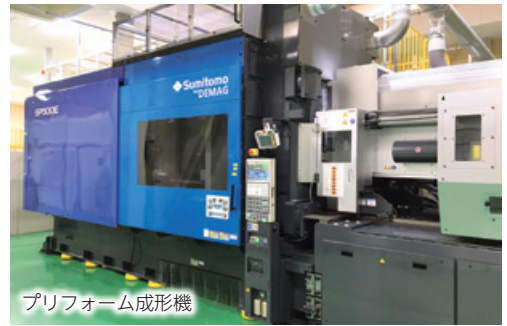
清涼飲料業界では、充填メーカー側が容器成形と充填を一貫して行う無菌充填への移行が進んでいます。

加えて炭酸飲料の市場拡大により、炭酸製品用、大型ペットボトル用のプリフォーム需要は増加を続けています。

この需要に対応するため、新規ラインを増設し、お客様からの要望に対応できるよう、生産体制の最適化を図ってまいります。

設備投資の概要

設備投資の内容	プリフォーム生産設備
投資額	約15億円
稼働開始日	2026年1月
工場所在地	北海製罐株式会社 千代田工場 群馬県邑楽郡千代田町昭和5-1



ホッカン・デルタパック・インダストリ社 カップ生産設備導入

ホッカン・デルタパック・インダストリ社では、カップ飲料容器やペットボトルプリフォームの製造事業、飲料水の受託充填事業を営んでいます。

ペットボトルと比べて安価なカップ飲料・カップ飲料水は、インドネシアではまだまだ成長分野であり、中長期的には、カップ飲料容器の需要は大幅に増加することが見込まれます。この需要に対応するため、カップ成形機およびカップ印刷機をチカランとモジョサリの両工場に増設いたしました。

設備投資の概要

設備投資の内容	カップ成形機2台・カップ印刷機2台
投資額	725億インドネシアルピア(約6.9億円)
稼働開始日	2026年2月
工場所在地	<ul style="list-style-type: none"> ●チカラン 1 (CK1) 支店 ジャカルタ東部 BIIE, Jl. Inti III Block C7 No.7 Lemah Abang, Bekasi 17750, Indonesia ●モジョサリ (MJS) 支店 東ジャワ Jl. Raden Patah, Dusun Adisono RT/RW 05/02 Desa Lebaksono Kec. Pungging, Mojokerto 61384, Indonesia



地域と連携したサーキュラーエコノミーの取り組み

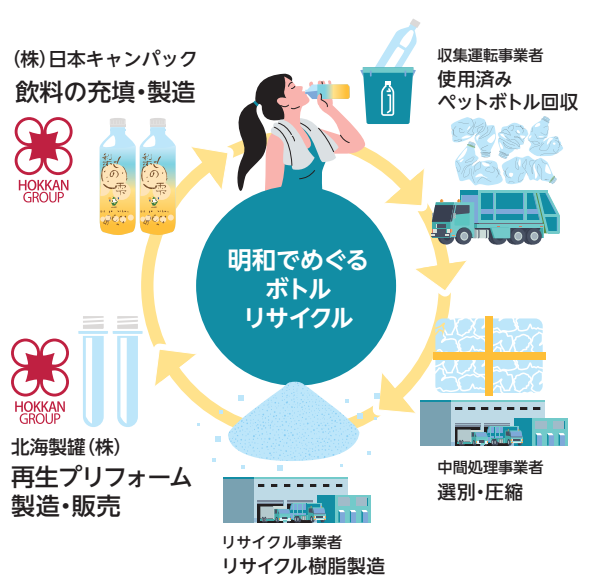
株式会社日本キャンパックと群馬県明和町とは、サーキュラーエコノミーおよび地域環境保全の実現を目指し、2025年12月16日に以下の協定を締結しました。

①協定名 「明和でめぐるボトルリサイクル協定」

②協定の概要と目的

本協定は、明和町内で発生する使用済みペットボトルを回収し、リサイクル樹脂へ再生したうえで、新たなペットボトルに水平リサイクル(ボトル to ボトル)する取り組みを推進するものです。日本キャンパックは、主要工場を群馬県明和町に有しており、同町商工会のオリジナル飲料である「梨の雫めいわ」の製造を通じて地域貢献を目指しています。本協定により、当社子会社の北海製罐も再生ペットボトルの容器製造工程で協力し、日本キャンパックにおいてペットボトルに成形・充填しています。

本取り組みは、地域の子どもたちがリサイクルの仕組みと重要性を学ぶ環境教育となるとともに、CO₂排出量の低減に貢献します。



水資源の持続可能な利用・脱炭素社会への貢献の取り組み

株式会社日本キャンパックは飲料製造に不可欠な水資源を守るため、水源涵養や森林保全の活動を実施しています。

今回、同社は農林水産省林野庁関東森林管理局 群馬森林管理署と協定を締結し、赤城山に所在する国有林84.46haを「日本キャンパック水源保全の森」と名づけ、害獣対策や生物多様性の調査など森林保全活動を推進することになりました。

これまでにも、赤城山中腹の県有林10.5haと民有林約2.7haを「日本キャンパックの森」として整備し、間伐や植樹、下草刈りを継続的に実施するなど、多様な取り組みによって森林を守り、水源の涵養機能の維持・向上に寄与してきました。

これらの森林は、いずれも赤城山にあり、ここに降った雨は沢を流れ、山にしみ込みながら浄化され、群馬県内の4工場で使用する貴重な水資源となっています。

今後も引き続き、地域環境の保護と水資源の持続可能性に貢献し、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを一層強化してまいります。



「日本キャンパック水源保全の森」看板

害獣対策活動(左:害獣被害の木/右:対策後) 熊による樹液の食害を防ぐため、木にPPバンドを巻く対策を行いました

健康優良法人2026に認定されました

ホックングループは健康経営推進方針を策定し、メンタルヘルスへの取り組み、食習慣の改善に関する取り組み、運動機会の増進に関する取り組み、喫煙率低減に向けた取り組み、感染症対策、海外赴任者健康管理等を実施しています。

こうした取り組みが評価され、このたび当社および国内連結子会社9社は、経済産業省および日本健康会議が実施する「健康経営優良法人2026」に認定されました。

健康経営優良法人認定制度とは、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康促進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している企業を表彰する制度です。

今後も、従業員の健康保持・増進を通じて職場の活性化と生産性の向上を図り、企業価値の向上や持続的な企業成長の実現に取り組んでまいります。





容器事業

売上高 **317億38**百万円
前年度比 1.2%増

営業利益 **16億78**百万円
前年度比 53.7%増

メタル缶

エアゾール用空缶につきましては、主力の殺虫剤関連製品が大きく減少し、家庭用エアコン洗浄剤、ホビー用塗料や自動車・工業製品等も低調に推移したことにより、前年を下回る結果となりました。

粉ミルク用空缶につきましては、インバウンド需要が減少した影響を受けましたが、価格改定が奏功し、前年並みの結果となりました。

食品缶詰用空缶につきましては、主力の水産缶詰は水産資源の減少を受けて低調に推移し、農産缶詰が減少しましたが、価格改定の影響により前年を上回る結果となりました。

美術缶につきましては、業務用スパイス缶は外食産業の需要回復を受けて堅調に推移しましたものの、ギフト需要の低迷を受けて海苔缶や菓子缶が減少した影響等により、前年を下回る結果となりました。

プラスチック容器

飲料用ペットボトルにつきましては、ホット製品向けボトルの販売が好調に推移しましたものの、プライベートブランドを取り扱うお客様におけるボトルの内製化等の影響を受けて、前年を下回りました。

プリフォームにつきましては、酷暑によるコンビ

ニエンスストアの来店客数減少やプライベートブランドの拡大等の影響が重なり、受注は低調に推移しましたが、大型ペットボトル用プリフォームの新規受注やメカニカルリサイクル材使用製品の増加等により、前年を上回りました。

これらの結果、プリフォームを含む飲料用ペットボトル全体としては、前年比で横ばいの結果となりました。

食品用ペットボトルにつきましては、つゆ製品向けスクイーズボトルや醤油製品向けPET素材の二重構造バリアボトルの大容量容器が好調に推移したこと等により、前年を上回る結果となりました。

その他のプラスチック製容器包装につきましては、一般成形品では化粧品向けの販売が減少しましたが、農業・園芸用品向けやヘルスケア向けの販売が増加し、また生活雑貨分野での新規取引を開始したことにより、前年を上回る結果となりました。バッグインボックスにつきましては、カウンターコーヒー向けの販売が堅調に推移し、価格改定の効果も加わったため、前年を上回る結果となりました。

以上の結果、容器事業全体の売上高は317億38百万円(前年度比1.2%増)となり、営業利益は16億78百万円(前年度比53.7%増)となりました。



充填事業

売上高 **397億80**百万円
前年度比 0.9%増

営業利益 **38億16**百万円
前年度比 8.3%増

缶製品

缶製品につきましては、通常缶では、一部のお客様の販売拡大に伴い受注が増加したこと等により、前年を上回る結果となりました。リシール缶(ボトル缶)でも、一部のお客様の購買体制変更を受けて受注が増加したこと等により、前年を上回る結果となりました。

ペットボトル製品

ペットボトル製品につきましては、大型ペットボトルでは1リットル製品が好調に推移し、2リット

ル製品も受注が回復しましたものの、水製品の受注が落ち込み、また小型ペットボトルでは生産ロットの細分化や製品の増量傾向に伴って生産数量が減少したこと等により、ペットボトル製品全体では、前年を下回る結果となりました。

以上の結果、乳製品受託製造および食品の受託製造を含めた充填事業全体の売上高は397億80百万円(前年度比0.9%増)となり、営業利益は38億16百万円(前年度比8.3%増)となりました。



海外事業

売上高 **153億78**百万円
前年度比 14.5%減

営業利益 **25**百万円
前年度比 98.0%減

ホッカン・デルタパック・インダストリー社では、新規設備投資と営業活動の強化によりプリフォームの受注が増加しましたものの、主力製品であるカップの市場が鈍化した影響を受け、前年を下回る結果となりました。また、ホッカン・インドネシア社では、一部お客様の販売戦略の変更による受注減少等により、前年を下回る結果となりました。

日本キャンパック・ベトナム社では、積極的な営業が奏功し、またエナジードリンクの受注が増加したこと等により、前年を上回る結果となりました。

以上の結果、海外事業全体の売上高は153億78百万円(前年度比14.5%減)となり、営業利益は25百万円(前年度比98.0%減)となりました。



その他

売上高 **36億60**百万円
前年度比 0.6%増

営業利益 **3億62**百万円
前年度比 44.7%減

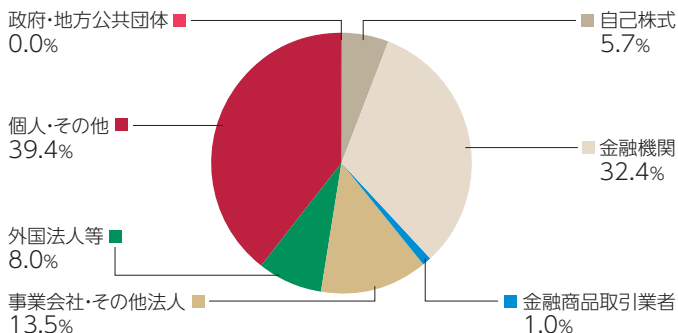
機械製作事業は、オーエスマシナリー株式会社において金型の受注が減少しましたが、KE・OSマシナリー株式会社において冷熱設備の受注が増加したこと等により、前年を上回る結果となりました。

以上の結果、工場内運搬作業等受託を含めたその他売上高は36億60百万円(前年度比0.6%増)となりましたものの、営業利益は3億62百万円(前年度比44.7%減)となりました。

株式の状況 (2026年3月31日現在)

発行可能株式総数	48,000,000株
発行済株式の総数	13,469,387株
株主数	32,440名

所有者別分布状況



会社概要 (2026年3月31日現在)

商号	ホッカンホールディングス株式会社 HOKKAN HOLDINGS LIMITED
本社	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号 日本橋三井タワー TEL03-5203-2680
設立	1950(昭和25)年2月1日 (創立 1921(大正10)年10月23日)
資本金	110億8,652万4,995円
従業員数	73名(連結 2,247名)
事業内容	●各種空缶・容器の製造 ●飲料受託充填 ●産業機械・金型の製作 他

役員 (2026年3月31日現在)

代表取締役社長	池田 孝資	常勤監査役	石川 宏司
取締役専務執行役員	佐藤 泰祐	監査役	渡邊 基樹
取締役専務執行役員	多田 秀明	監査役(社外)	鈴木 徹也
取締役常務執行役員	武田 卓也	監査役(社外)	田島 正広
取締役常務執行役員	砂廣 俊明		
取締役(社外)	藤田 晶子		
取締役(社外)	耕田 一英		
取締役(社外)	渡邊 敦子		
取締役(社外)	古川 尚史		

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,151	9.06
日本生命保険相互会社	654	5.16
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	556	4.38
農林中央金庫	400	3.15
ホッカンホールディングスグループ取引先持株会	391	3.08
株式会社みずほ銀行	294	2.32
東京海上日動火災保険株式会社	261	2.06
三菱UFJ信託銀行株式会社	247	1.95
INTERACTIVE BROKERS LLC	226	1.78
福岡パッキング株式会社	215	1.70

(注1)持株数は千株未満を切捨てて表示しております。
(注2)当社は自己株式767,369株を所有しておりますが、上記大株主からは除いております。
(注3)持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
上場証券取引所	東京証券取引所 札幌証券取引所
公告方法	電子公告により行う (https://hokkanholdings.co.jp/)に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間 9:00-17:00(土日祝日を除く)
インターネットホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency



ホッカンホールディングス株式会社

〒103-0022
東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー 13階
TEL 03-5203-2680 (代表)
URL: <https://hokkanholdings.co.jp/>



この冊子は環境への配慮のため、FSC®森林認証紙とベジタブルオイルインキを使用しています。